

第3章 環境の現況

1 自然環境の現況

(1) 地形

釧路市の地形は、太平洋に面する海岸線、その背後の低地、いくつかの丘陵地と台地、北部の火山地、そして、低地を縫うように流れる河川などで構成されています。

北部の火山地は、当地域最高峰で活火山の雌阿寒岳(1,499m)をはじめとする火山とカルデラ湖の阿寒湖、パンケトー、パンケトーなどの湖沼が広がっています。阿寒カルデラは、千島火山帯の西南端に位置しており、その形成時代は、約12万年前とされています。

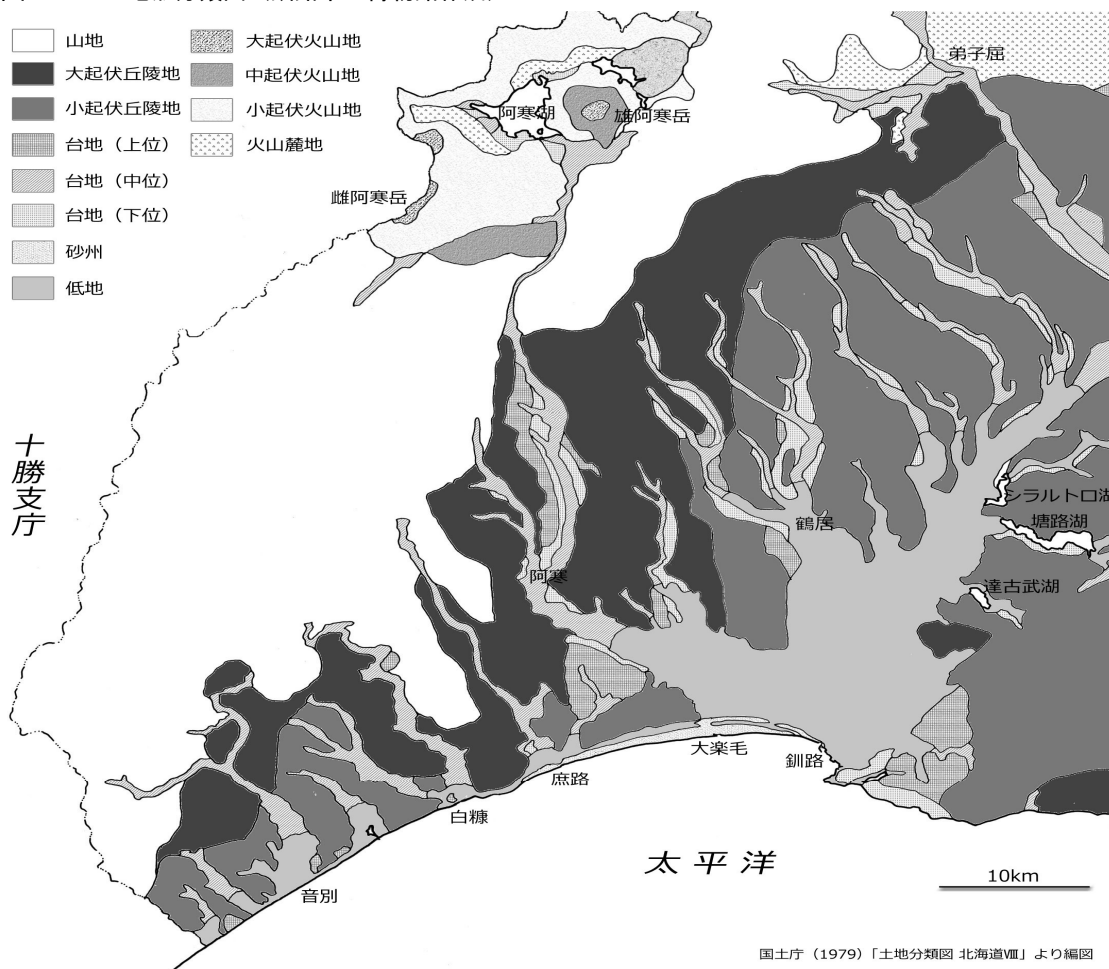
東部には根室段丘と呼ばれる海岸段丘が根室まで広がっています。釧路湿原の北西部に鶴居丘陵・西部に白糠丘陵と呼ばれる二つの丘陵地が加わり、十勝との境界になる国境山地まで発達しています。さらに、これらより一段低い釧路段丘と呼ばれる海岸段丘が低地に接しています。

低地は、海岸線の砂丘地とそれに連続する河口域の沖積地、そして釧路湿原をかたちづくっている泥炭地で構成されています。また、阿寒川・仁々志別川・音別川・尺別川沿いの低地には、農耕地に適した平野が広がっています。

寒流の千島海流に洗われる海岸は、釧路川河口を境として東部には切り立った海岸段丘が連なり、西部には数列の砂丘を伴った平坦な砂浜海岸が伸びています。

また、阿寒の火山地帯に水源をもつ釧路川と阿寒川が、釧路市域を流下し、なかでも釧路川は、多くの支川を集めて釧路湿原域を蛇行しながら南流し、太平洋に注いでいます。

図 3-1-1 地形分類図 (釧路市立博物館作成)



(2) 地質

釧路地方の地質は、堆積岩で構成される地域と火山地帯の火成岩を主とする地域とに分けられます。基盤となる地層は、アンモナイトやイノセラムスなどの化石を含む根室層群（中生代白亜紀末期）です。

その上には、釧路炭田を構成する数十枚の石炭層を含む浦幌層群や音別層群が、さらに新第三紀の地層が堆積しています。

そして、北部の火山地域では、それらを基盤として火山岩や火山噴出物が地表をおおっています。

海岸段丘や丘陵地には、第四紀の洪積世に堆積した釧路層群や大楽毛層などが、広範囲に分布しています。市街地や河川流域の低地には、火山灰を含む砂礫（されき）や粘土からなる沖積層が分布し、さらに釧路湿原には泥炭層が分布しています。

図 3-1-2 地質層序表 (地質年代は平成20年度版 理科年表による)

		地質時代		地層名	
1 万年前		第四紀	完新世 (沖積世)	沖積層	
			更新世 (洪積世)	屈斜路軽石流堆積物	
260 万年前				大楽毛層	
				釧路層群	塘路層
530 万年前		新第三紀	鮮新世	阿寒層群	
			中新世	厚内層群	
2,300 万年前	新生代			布伏内層	
				古第三紀	
		茶路層			
6,600 万年前				大曲層	
				浦幌層群	尺別層
					舌辛層
					双運層
					雄別層
					天寧層
					春採層
別保層					
	中生代	白亜紀	根室層群		

整合 —— 不整合 ~~~~

(3) 植物

釧路市とその周辺は、冷温帯・亜寒帯に属する植物群で占められ、特異な気象条件、多様な地形などとあいまって、特色ある植物相が展開しています。

釧路市の植生は、海岸線、低湿地、段丘・丘陵地そして山岳地などの植生帯に区分できます。

阿寒湖には、マリモを代表としてヒメフラスコモ、カタシヤジクモ、シヤジクモなどの多くの希少種の藻類が確認されています。

阿寒川流域では、本流源流部のトドマツ・エゾマツ林にはヤマモミジ、オヒョウ等を交え、樹冠が密なため林床では蘇苔類と地衣類が優占しており、中流部では、アカエゾマツ・トドマツ・エゾマツなどが優占しており、立木密度も高くなっています。

釧路湿原に代表される海岸から内陸にかけての低湿地には、ヨシ・スゲ類群落、ハンノキ湿地林、ミズゴケ類群落からなる湿地植物群落が占めます。

内陸の段丘・丘陵地には、ミズナラ、イタヤカエデ、シラカバを優占とする落葉広葉樹林帯が広がっており、海岸付近には、ミヤマハンノキやダケカンバなどが分布しています。

海岸線においては、砂浜・砂丘地植物群落、海食崖・海岸段丘には海岸草原が分布しています。特に西部では、海浜植生が保たれており、音別地区と白糠町にまたがる海跡湖であるパシクル沼周辺を含めて、湿原植生、沼沢地植生、塩湿地植生など多様な植生が展開しています。

また、本来、生育地の中心がサハリンやシベリア以北であるエゾウスユキソウやハナタネツケバナ、ウラホロイチゲ、クシロハナシノブなどが釧路市周辺にも生育しており、釧路地方の植生を特徴づけています。

(4) 動物

太平洋に面する海岸地帯、阿寒山系から広がる森林・丘陵地帯、釧路川とその下流に広がる釧路湿原など、釧路市周辺の自然の構成は変化に富み、そこに特色ある野生動物が生息しています。

釧路市周辺を象徴する野生動物種は、国内希少野生動植物種にも指定されているタンチョウです。タンチョウは、大正13年、それまで絶滅したと思われていましたが、釧路湿原において十数羽が発見されました。それ以来、地域の人々によって手厚く保護され、現在は、東北海道を中心に約1,000羽が生息しています。釧路市内のタンチョウ給餌場は、阿寒地区に5箇所、音別地区に2箇所、合計7箇所指定されています。

釧路市を特徴づける鳥類としては、シマフクロウやクマゲラ、オジロワシなどが生息し、オオワシ、ヒシクイなどが冬鳥として飛来します。ほ乳類としては、ヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾタヌキなどが生息しています。リスは、エゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガの3種類がいます。

表 3-1-1 釧路地区で確認されている動植物の種類

	釧路地区	北海道	全国
植物（裸子植物、被子植物、シダ植物）	1,005	2,250	約 8,800
哺乳類	28	62	241
鳥 類	237	405	約 700
両生類・は虫類	8	24	161
魚 類（汽水・淡水魚類）	37	71	約 300
昆虫類	959	11,241	約 30,200

※1 釧路地区の数値は「平成16年度釧路市自然環境現況解析事業報告書」（釧路市 2005年）による。

2 北海道の数値は「北海道レッドデータブック2001」による。

3 全国の数値は「第三次生物多様性国家戦略」（環境省 2007年11月）による。

表3-1-2 阿寒川水系、阿寒湖周辺で確認されている動物の種類

哺乳類	24
鳥類	104
魚類	25
昆虫類	890

※ 「阿寒川水系総合調査報告書」（釧路市教育委員会（釧路市博物館）、財団法人前田一步園、阿寒町教育委員会 1993年3月）による。

表3-1-3 「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」に記載されている希少野生生物動植物の種類

種類	地区	釧路市で見られる希少種		
		釧路地区	阿寒地区	音別地区
植物	82	60	35	4
鳥類	31	24	17	4
両生類	2	1	2	0
魚類	9	7	6	3

※ 一つの種がいくつかの地区で見られる場合があるため、釧路市全体で見られる希少種の数と3地区合計とは一致しない。

表3-1-4 タンチョウ生息状況調査結果

調査年	平成 16年	平成 17年	平成 17年	平成 18年	平成 18年	平成 19年	平成 19年	平成 20年	平成 20年	平成 21年
調査月日	12月 13日	1月 25日	12月 6日	1月 25日	12月 5日	1月 26日	12月 5日	1月 25日	12月 5日	1月 23日
観察数 (羽)	860	668	681	1,081	686	1,013	948	799	801	1,065
釧路市内の 観察数 (羽)	17	16	222	429	255	373	371	365	326	396

※ タンチョウ生息状況一斉調査結果（北海道）による。